



NPO法人 北摂里山文化保存会

2019年度 活動報告書

【テーマ】

里山の保全・整備・活用

里山情報の発信

北摂地域の活性化

【プロジェクト】

01：台場クヌギ群生林の保全と活用【継続】

02：北摂里山文化講演会の開催【完了】

03：日本展示学会研究大会への参加【完了】

04：北摂里山まつり2019の開催【完了】

05：北摂里山地域循環共生圏構想への参画【継続】

06：バイオマス事業立ち上げに向けた検討【継続】

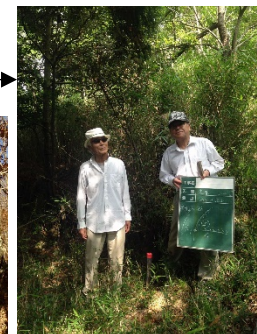


(1)活動の概要

2018年度（2019年3月）に取得した黒川・大谷地区の里山（おおむね3.3ha）の保全・活用に向けて、現況の確認や調査などを行った。
また、炭焼業者により台場クヌギを伐採し、菊炭の原木として供給した。

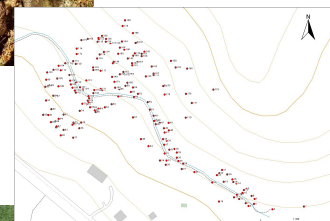
①隣地との境界の確認

敷地南側(6/23)及び東側(8/10)の境界について、隣接地所有者の立会いの下で確認した。



②台場クヌギ群生林の状況調査

12月20日に、北摂里山愛す会の協力をいただいて台場クヌギの毎木調査を行った。
約300本の台場クヌギが群生していることを確認し、位置を地図上にプロットした。



③ドローンによる上空からの現況確認

会員所有のドローンで上空から写真を撮影し、植生などを確認した。



④台場クヌギの伐採

炭焼業者の今西さんが菊炭を焼く原木として、12月～2020年1月に台場クヌギを伐採した。



(2)活動の成果

- 境界確認や毎木調査などにより、保全地の適切な管理や、今後の保全・整備・活用に必要な基礎データを収集することができた。
- 黒川地区の貴重な地域資源である菊炭の安定供給を支えることができた。

(3)Next Step

- 台場クヌギ群生林の、川西市の文化財指定を目指す。
- 伐採後の萌芽再生に合わせ、鹿の食害被害防止に向けた対策を取る。
- 里山全体の保全活動の実施体制を整備する。

(1)活動の概要

北摂地域の里山は「菊炭」の生産や台場クヌギの群生など、世界的にも貴重な里山であるが、荒廃しつつある現状や価値が十分に知られておらず、将来に向けた保全に不安がある。

そこで、北摂の里山が貴重な地域資産であることを広く世の中に伝えるために、一般向けの講演会を開催した。

- ・ 開催日時 : 2019年12月7日(土) 10時～12時
- ・ 開催場所 : キセラ川西プラザ・大集会室
- ・ 講師 : 服部保氏 (兵庫県立大学名誉教授)
- ・ 演題 : 「日本一の里山を守る！」
- ・ 参加者 : 66人



(2)活動の成果

講師は里山の現状や重要性などを分かりやすく話され、参加者は熱心に聞いていた。また、講演後にはいくつも質問が出された。さらに、里山関連の書籍を販売したところ、多数が購入された。

これらのことから、里山についての認識を深めることができたと考える。

(3)Next Step

講演会は当初、北摂地域の1市3町（川西市・猪名川町・豊能町・能勢町）で計4回開催することとしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で2回目以降を中止せざるを得なかった。

里山の重要性を伝える取り組みは、講演会など多様なスタイルで引き続き工夫を重ねていく。

(1)活動の概要

北摂地域の里山の重要性を地域外にも広く伝えるため、日本展示学会「第38回研究大会」(6/29@大阪芸術大学貴志キャンパス)においてポスターセッションに参加した。展示したポスターは、この日のために作成したものである。



(2)活動の成果

研究大会（発表）に関東地方をはじめ全国各地から集まった研究者等がポスターを見てくれ、興味を持った人から質問を受けることもあった。

ポスターセッションを通じて、北摂地域の里山の情報を発信することができた。

(3)Next Step

2020年度も同研究大会へ参加する。

また、作成したポスター等を活用して情報発信ができる機会があれば、参加を検討していく。

(1)活動の概要

黒川地区では2007年から、里山の魅力を多くの人々に楽しんでもらうイベント「黒川里山まつり」が、地元自治会や行政などが主体となって開催されてきた。

2019年度からは地元商業者有志、企業、団体などが実行委員会を構成し、「北摂里山まつり」としてイベントを開催することとし、当保存会が事務局を担った。

- ・ 開催日時： 11月3日（日・祝）10時～15時
- ・ 開催場所： 川西市知明湖キャンプ場（主会場）、国崎クリーンセンター・ゆめほたる、黒川ダリヤ園、すみっこカフェ（古民家）、桜の森、県立一庫公園
- ・ 主な内容： 飲食物や雑貨などのマルシェ、DJステージ、ジョン・ギャスライト氏講演会、川西緑台高校軽音楽部の演奏、宮城県女川町のサンマ1000匹の無料配布、ライディングスクール、古民家カフェ、もったいないマーケット、自然体験ツアー



(2)活動の成果

- 長年続けられてきた地域イベントを、多くの団体等の協力を得て引き続いて開催することができた。
- 来場した多くの人々に北摂の里山の魅力を体感してもらい、広くPRすることができた。
- 参加した各種団体同士の結びつきが強まり、北摂地域を活性化する力となった。

(3)Next Step

2020年度以降も引き続き北摂里山まつりを開催していくが、趣旨や実施体制などに基づいてイベントの内容やスタイルは検討する。

(1)活動の概要

環境省が標榜する都市と地域をインタラクティブにつなぎ、地域の独自性特質性を生かした循環型社会の構築を図る令和元年の同構想事業において、5つの事業と2つの活動が計画され、その事業の一つ「地域自然環境の保全」事業のサポートを行った。

構想の経緯進捗に伴う意見交換、意見発信やホームページをベースにステークホルダーとしてのプレゼンテーションを行い、また11月開催の当保存会主催の北摂里山まつりにおいて、本共生圏のPRにも協力した。

(2)活動の成果

本共生圏の認知を高めたのみならず、県をはじめ広域の自然環境保全関係者やエネルギー分野、地域交通分野、木質バイオマス分野、地域内の食の地産地消を促進する分野、各分野のステークホルダーとの関係性を高めることができ、今後の当保存会の活動の幅を広げる緒となり得たと考ええる。

(3)Next Step

本共生圏事業は、2020年度も継続し、当保存会は北摂地域の自然環境保全事業に寄与することで、本共生圏のステークホルダーとしての関与を継続する予定である。

また、本共生圏事業の一つである木質バイオマス事業において本保存会の特性を生かした協力を行う予定で、検討を進めている。

(1)活動の概要

里山から産出される木材を活用する木質バイオマスにより熱エネルギーを得て、一庫温泉を復活させるプロジェクトを進めるにあたり、木質バイオマス事業の先進地における事例を確認するため、岡山県西栗倉村を視察した。

なお、この事業は兵庫県の「地域創生！再エネ発掘プロジェクト」の補助金を受けて実施した。

- ・ 日時：2020年2月16日（日）
- ・ 視察先：西栗倉保育園（バイオマスの熱で床暖房など）、バイオマスプラント（チップボイラーが稼働）、旧影石小学校（ベンチャー企業などが入居）、西栗倉発電所（小水力発電）、湯〜とぴあ黄金泉（薪ボイラーで熱源を供給）
- ・ 参加者：保存会の正会員及び賛助会員24名
- ・ 講師：井筒耕平氏（株）sonraku）



(2)活動の成果

木質バイオマスの現場を見学したり質疑応答をしたりすることで、木質バイオマスについて具体的なイメージを掴み詳しく理解することができた。北摂地域における木質バイオマス導入の検討に大いに参考となる。

(3)Next Step

北摂地域での木質バイオマスの導入に向けて、兵庫県やIGES（公益財団法人地球環境戦略研究機関）などと共同で検討を進めていく。

2. 活動の成果

北摂里山文化保存会は2018年11月の設立の後、2019年度が事業展開の実質的な初年度となり、「里山の保全・整備・活用」「里山情報の発信」「北摂地域の活性化」の3つのテーマに沿って事業を展開した。

「里山の保全・整備・活用」については、川西市黒川大谷の里山の保全に向けた現状の把握などを進め、2020年度から本格的な保全・整備活動を展開するための準備ができた。

「里山情報の発信」については、様々な機会をとらえて情報を発信したところであるが、これがどのような成果を出したかの検証は難しく、また、短期的に効果を表すものではないので、引き続きツールなどを工夫して取り組んでいく必要がある。

「北摂地域の活性化」については、エネルギーや地域間交流を軸とした北摂地域の活性化に向けた取り組みを始めたところであり、これらを継続していくことで具体的な成果へつなげていくこととしている。